

障がい者生活支援センター きつねあな（障害児相談支援）運営規程

（事業の目的）

第1条 この規定は、社会福祉法人岐阜羽島ボランティア協会（以下「事業者」という。）が設置する障がい者生活支援センター きつねあな（以下「事業所」という。）において実施する指定障害児相談支援事業の適正な運営を確保するために必要な人員及び運営管理に関する事項を定め、指定障害児相談支援の円滑な運営管理を図るとともに、障がい児（者）及びその保護者や身元引受人（以下「障がい児等」という。）の意思及び人格を尊重して、常に当該障がい児等の立場に立った適切な指定障害児相談支援の提供を確保することを目的とする。

（運営の方針）

第2条 事業所は、障がい児等がその有する能力及び適正に応じ、自立した日常生活又は社会生活を営むことができるよう、保健、医療、福祉、教育等の関係機関との密接な連携の下で、当該障がい児等の意向、適正、障がいの特性その他の状況及びその置かれている環境に応じて、適正かつ効果的に事業を行うものとする。

2 事業所は、障がい児等の意思及び人格を尊重し、常に障がい児等の立場に立って、障がい児等に提供される福祉サービス等が特定の種類又は特定の種類の障害児通所支援事業を行う者に不当に偏ることのないよう、公正中立に行うものとする。

3 事業所は、市町村、障害児通所支援事業を行う者等との連携を図り、地域において必要な社会資源の改善及び開発に努めるものとする。

4 前三項のほか、児童福祉法（昭和22年法律第164号以下「法」という。）及び「児童福祉法に基づく指定障害児相談支援の事業等の人員及び運営に関する基準」（平成24年厚生労働省令第29号）に定める内容のほか関係法令等を遵守し、指定障害児相談支援を実施するものとする。

（事業所の名称等）

第3条 指定障害児相談支援を行う事業所の名称及び所在地は、次のとおりとする。

（1）名称 障がい者生活支援センター きつねあな

（2）所在地 岐阜県羽島市竹鼻町狐穴719番地1 はしま福祉サポートセンター内
電話058-393-0098 FAX058-393-1218
携帯電話090-9189-3460

（3）休日対応場所 かみなり村 羽島市正木町坂丸二丁目97番地

電話058-393-2608 FAX058-394-0113

（職員の職種、員数及び職務の内容）

第4条 本事業所に配置すべき職員ごとの定数及び職務の内容は、次のとおりとする。

（1）管理者 管理者 1名（常勤兼務職員1名 相談支援専門員との兼務）

管理者は、職員の管理、指定障害児相談支援の利用の申込みに係る調整、業務の実施状況の把握その他の管理を一元的に行うとともに、法令等において規定されている指定障害児相談支援の実施に関し、事業所の職員に対し遵守させるため必要な指揮命令を行う。

（2）相談支援専門員 10名（常勤専従職員4名、常勤兼務職員2名、非常勤専従職員4名）

相談支援専門員は、地域の障がい児等からの日常生活全般に関する相談に関する業務及びサービス等利用計画の作成に関する次の業務を行う。

（ア）アセスメントを実施すること。

（イ）サービス等利用計画書を作成すること。

（ウ）サービス等利用計画書を利用者等に交付すること。

（エ）モニタリングを実施すること。

- (オ) 他の職員に対する技術指導及び助言を行うこと。
- (カ) 利用者等からの依頼により、利用者及び障がい児が居宅での生活に移行できるよう、必要な情報及び助言その他必要な援助を行うこと。
- (キ) その他必要な相談及び援助。
- (3) 精神保健福祉士 0名（非常勤専従職員0名）
- (4) その他従業者 0名（非常勤専従職員0名）
その他の従業者は、指定地域相談支援に関する次の業務を行うものとする。
- (ア) 指定地域移行支援に関する業務
利用者等につき、住居の確保その他の地域における生活に移行するための活動に関する相談その他の必要な支援。
- (イ) 指定地域定着支援に関する業務
利用者等との常時の連絡体制を確保し、当該利用者等に対し、障がいの特性に起因して生じた緊急の事態その他の緊急に支援が必要な事態が生じた場合の相談その他の必要な支援。

（営業日及び営業時間等）

第5条 事業所の営業日及び営業時間並びにサービス提供日及びサービス提供時間は、次のとおりとする。

- (1) 営業日 月曜日から土曜日までとする。ただし、国民の祝日、並びに年末年始（12月29日～1月3日）までを除く。
- (2) 営業時間 午前8時30分から午後5時30分までとする。
- (3) サービス提供日 月曜日から土曜日までとする。ただし、国民の祝日、並びに年末年始（12月29日～1月3日）までを除く。
- (4) サービス提供時間 午前8時30分から午後5時30分までとする。

（指定障害児相談支援を提供する主たる対象者）

第6条 事業所において指定障害児相談支援を提供する主たる対象者は、次のとおりとする。

- (1) 障がい児 （18歳未満の身体障がい者及び知的障がい者）

（指定障害児相談支援の提供方法及び内容）

第7条 事業所で行う指定障害児相談支援の提供方法及び内容は、次のとおりとする。

- (1) サービスの提供方法等についての説明
障がい児等の立場に立って懇切丁寧に行うことを旨とし、障がい児等に対し、サービスの提供方法等について理解しやすいように説明を行うとともに、必要に応じ、同じ障がいを有する障がい児の家族による支援等適切な手法を通じ行うものとする。
- (2) アセスメント（支援する上で解決すべき課題等の把握）の実施
 - (ア) 適切な方法により、障がい児の心身の状況、置かれている環境及び日常生活全般の状況等の評価を通じて障がい児の希望する生活や障がい児が自立した日常生活を営むことができるよう支援する上で解決すべき課題等の把握を行うものとする。
 - (イ) 障がい児の居宅を訪問し、障がい児等に面接して行うものとする。また、面接の趣旨を障害児等に対して十分に説明し、理解を得るものとする。
- (3) 障害児支援利用計画案の作成
 - (ア) アセスメントに基づき、地域における指定障害児通所支援が提供される体制を勘案して、最も適切な福祉サービス等の組み合わせについて検討し、障がい児等の生活に対する意向、総合的な援助の方針、生活全般の解決すべき課題、提供される福祉サービス等の目標及びその達成時期、福祉サービス等の種類、内容及び量並びに福祉サービス等を提供する上での留意事項等を記載するものとする。

- (イ) 障害児支援利用計画案に位置付けた福祉サービス等について、法第 21 条の 5 の 5 第 1 項に規定する障害児通所給付費等の対象となるかどうかを区分した上で、障害児支援利用計画案の内容について、障がい児等に対して説明し、文書により障がい児等の同意を得るものとする。
 - (ウ) 障害児支援利用計画案を作成した際には、障害児支援利用計画案を障がい児等に交付するものとする。
- (4) 障害児支援利用計画の作成
- (ア) 通所給付決定を踏まえて障害児支援利用計画案の変更を行い、指定障害児通所支援事業者等その他の者との連絡調整等を行うとともに、障害児支援利用計画案に位置付けた福祉サービス等の担当者を招集して行うサービス担当者会議の開催等により、障害児支援利用計画案の内容について説明を行うとともに、専門的な見地からの意見を求めるものとする。
 - (イ) (ア) に規定するサービス担当者会議を踏まえた障害児支援利用計画案の内容について、障がい児等に対して説明し、文書により障がい児等の同意を得るものとする。
 - (ウ) 障害児支援利用計画を作成した際には、障害児支援利用計画を障がい児等及び担当者に交付するものとする。
- (5) モニタリング（サービス等利用計画の実施状況の把握）の実施
- (ア) 障がい児等、福祉サービス等の事業を行う者等との連絡を継続的に行い、厚生労働省令で定める期間ごとに障がい児の居宅等を訪問し、障がい児等に面接し、その結果を記録するものとする。
 - (イ) モニタリングの結果、必要に応じて障害児支援利用計画を変更し、福祉サービス等の事業を行う者等との連絡調整その他の便宜の提供を行うとともに、新たな通所給付決定が必要であると認められる場合には、障がい児等に対し、通所給付決定に係る申請の勧奨を行うものとする。
- (6) 前各号に掲げる便宜に附帯する便宜
- (1) から (5) に附帯するその他必要な支援、相談、助言を行うものとする。

(地域生活支援拠点等の機能を担う事業所)

第 8 条 事業所は「障害福祉サービス等及び障害児通所支援等の円滑な実施を確保するための基本的な指針（平成 18 年厚生労働省告示第 395 号）第一の二の 3」に規定する地域生活支援拠点等として次の機能を担う。

- (1) 相談
地域での孤立を予防するため、当該世帯の事前把握と常時の連絡体制の確保に努め、障がい特性や生活環境等に起因して生じた緊急の事態等に必要なサービスの調整や相談等を行う機能。
- (2) 専門的人材の確保・養成
行動に障がいを有する者、地域で孤立する障がい者等に対して、ニーズに応じた支援体制の確保、生活の質を高めるための専門的な対応ができる人材養成や研修を行う機能。
- (3) 地域の体制づくり
地域の様々なニーズに対応できるサービス提供体制の確保や、地域の社会資源の連携体制の構築等を行う機能。
- (4) 生活基盤の確立と安定化
地域生活を営むための就労や居住支援、学びの機会・居場所支援、非常時の食料援助等を行う機能。

(障がい児の保護者から受領する費用の額等)

第9条 法定代理受領を行わない指定障害児相談支援を提供した際は、障がい児の保護者から法第24条の26第2項の規定により算定された障害児相談支援給付費の支払いを受けるものとする。

2 前項のほか、第10条に定める通常の事業の実施地域を越えて行う事業に要する交通費は、公共交通機関等を利用した場合は、その実費を障がい児の保護者から徴収するものとする。なお、この場合、事業者の自動車を使用したときは、次の額を徴収するものとする。

(1) 事業所から片道10キロメートル未満 0円

(2) 事業所から片道10キロメートル以上 30円/キロ

但し、羽島市、笠松町、岐南町については、10キロ以上であっても費用は発生しないものとする。

3 前項の費用の額に係るサービスの提供に当たっては、あらかじめ、障がい児等に対し、当該サービスの内容及び費用について説明を行い、障がい児等の同意を得るものとする。

4 第1項から第2項までの費用の支払いを受けた場合は、当該費用に係る領収証を、当該費用を支払った障がい児等に対し交付するものとする。

(利用者負担額等に係る管理)

第10条 事業所は、障がい児等の依頼を受けて、当該障がい児が同一の月に指定通所支援を受けたときは、当該同一の月に受けた指定通所支援に要した費用(特定費用を除く。)の額から法第21条の5の3第2項第2号に掲げる額の合計額を算定するものとする。この場合において、利用者負担額等合計額が、児童福祉法施行令(昭和23年政令第74号。以下「令」という。)第24条第1項に規定する負担上限月額、又は令第25条の6第1項に規定する高額障害児通所給付費算定基準額を超えるときは、指定通所支援事業の状況を確認の上、利用者負担額等合計額を市町村に報告するとともに、障がい児の保護者及び障がい児に対し指定通所支援等を提供した指定障害児通所支援事業者に通知するものとする。

(通常の事業の実施地域)

第11条 通常の事業の実施地域は、羽島市、笠松町、岐南町の全域とする。

(緊急時及び事故発生時等における対応方法)

第12条 指定障害児相談支援の提供により事故が発生したときは、直ちに都道府県、支給決定をした市町村、障がい児等に連絡するとともに、必要な措置を講じるものとする。

2 指定障害児相談支援の提供により賠償すべき事故が発生したときは、速やかに損害を賠償するものとする。

(苦情解決)

第13条 提供した指定障害児相談支援に関する障がい児等の苦情に迅速かつ適切に対応するために、苦情を受け付けるための窓口を設置するものとする。

2 提供した指定障害児相談支援に関し、法第24条の34第1項の規定により市町村が、法第57条の3の2第1項の規定により市町村長が、また法第57条の3の3第3項の規定により岐阜県知事が行う報告若しくは文書その他の物件の提出若しくは提示の命令、又は当該職員からの質問若しくは事業所の設備若しくは帳簿書類その他の物件の検査に応じ、及び障がい児等からの苦情に関して市町村又は岐阜県知事及び市町村長が行う調査に協力するとともに、市町村又は岐阜県知事及び市町村長から指導又は助言を受けた場合は、当該指導又は助言に従って必要な改善を行うものとする。

3 社会福祉法(昭和26年法律第45号)第83条に規定する運営適正化委員会が同法第85条の規定により行う調査又はあっせんのできる限り協力するものとする。

(個人情報の保護)

- 第14条 事業所は、その業務上知り得た障がい児等の個人情報については、個人情報の保護に関する法律(平成15年法律第57号)その他関係法令等を遵守し、適正に取り扱うものとする。
- 2 職員は、その業務上知り得た障がい児等の秘密を保持するものとする。
- 3 職員であった者に、業務上知り得た障がい児等の秘密を保持するため、職員でなくなった後においてもこれらの秘密を保持すべき旨を、職員との雇用契約の内容とする。
- 4 事業所は他の障害児通所事業所に対して、障がい児等に関する情報を提供する際は、あらかじめ文書により障がい児等の同意を得るものとする。

(虐待の防止のための措置に関する事項)

- 第15条 事業所は、障がい児等に対する虐待を早期に発見して迅速かつ適切な対応を図るため、次の措置を講じるものとする。
- (1) 虐待の防止に関する責任者の選定
- (2) 成年後見制度の利用支援
- (3) 苦情解決体制の整備
- (4) 従業者に対する虐待の防止を啓発・普及するための研修の実施

(その他運営に関する重要事項)

- 第16条 事業所は、職員の資質の向上のために研修の機会を次のとおり設けるものとし、また、業務の執行体制についても検証、整備するものとする。
- (1) 採用時研修 採用後1カ月以内
- (2) 継続研修 年1回
- 2 事業所は、職員、設備、備品及び会計に関する諸記録を整備するものとする。
- 3 事業所は、障がい児等に対する指定障害児相談支援の提供に関する諸記録を整備し、当該指定障害児相談支援を提供した日から5年間保存するものとする。
- 4 この規程に定める事項のほか、運営に関する重要事項は社会福祉法人 岐阜羽島ボランティア協会と事業所の管理者との協議に基づいて定めるものとする。

(非常災害対策)

- 第17条 業務の提供中に天災及びその他の災害が発生した場合、従業者は障がい児の避難等適切な措置を講ずる。また、防火管理者は、非常災害に関する具体的な計画を立て、従業者に周知徹底を図るとともに、避難経路及び協力機関等との連携方法を確認し、災害時には、避難等の指揮をとる。また、非常災害に備えるため、避難、救出その他必要な訓練を定期的(年2回以上)に行うものとする。

附 則

(施行期日)

この規程は、平成27年3月1日から施行する。

平成27年5月1日改正。

平成27年8月1日改正。

平成28年1月1日改正。

平成28年9月1日改正。

平成29年4月1日改正。

平成29年10月1日改正。

平成30年9月1日改正。

令和元年10月1日改正。

令和2年4月1日改正。

令和3年3月1日改正。